

泰山木山の会(桧枝岐・尾瀬紀行 2016/07/24~25)

今泉 陽一¹

泰山木山の会のメンバーもご多分に漏れず高齢化が進んできたため、U 会長より、楽しく且厳しいコースはないかと相談を受けた。アクセスは不便だが、以前行ったことがある会津桧枝岐から尾瀬に行くコースを提案したところ、計画を立てて欲しいとの命を受け、1泊2日のコースを提案し、OKが出たので、さっそく宿の予約と日程表を作成してみた。

初日は、電車・バスを乗り継ぎ尾瀬御池を散策、桧枝岐(ひのえまた)の民宿に宿泊、翌日バスで沼山峠へ行き、そこから尾瀬沼に向かい沼周辺を散策し、同じコースを戻るといふ計画なのである。初日は歩行時間約1時間強、2日目は約3時間で高低差も余りなく、比較的楽なコース。

東武線浅草駅に全員集合。8:00 発の東武特急きぬ 103 号にて出発。ここから約2時間で鬼怒川温泉駅に到着、野岩鉄道に乗り換え約50分で会津高原尾瀬口駅に10:46 到着予定と順調に運んだつもりが、ハプニング発生。乗り換えた電車にT君夫人の姿が見えないという。T君が大慌てで、途中駅で下車、探しに戻る。何分にもローカル線なので運行本数も少なく、これも本数が少ないバスの発車時刻に間に合いそうもない。しかたなく、会津高原尾瀬口駅の憩いの家でバスの回数券を購入し、二人を置いて、残り16名は予定のバスに乗車。(このバスの回数券が、5千円で6,250円分と超お得で、今回のコースのバス代がトータル6,300円なので丁度よいのだ。) 乗り遅れた二人とは、連絡がとれ、直接民宿へ行ってもらふことになった。

さらに、ここから約2時間バスに揺られて、尾瀬御池に到着。お天気は、我々の普段の心掛けの良さのお蔭で暑いくらいだ。ここで、約1時間30分散策で14:30 発のバスに乗車し宿へ向かう計画であったが、U 会長から、せつかくの良い天気でもあるし、(明日の天気は保証されないしね) 散策時間を延長し16:20のバスにしようという提案があり、遅らせることにしたのだ。計画立案者として



では、桧枝岐村の温泉にゆっくりと浸かり、村の歴史をゆっくり見学したいと思っていたのだが…。

準備をして、上田代方面へ湿原の木道を歩いて出発。すぐに「熊出没注意」の看板、熊は水芭蕉の咲き終わったあとの実が好物だそうなのだ。気をつけよう。計画書上では、静かで平らな木道を散歩がてらとアナウンスしていたが、意外

¹ 著者は一般社団法人日本リゾートクラブ協会事務局長

に登りの階段が続き、暑さもあって少し苦戦したが、頑張って何とか目的の場所まで辿り着いた。そこでお湯を沸かし、定番の甘酒をいただく。それにプラス冷たいキウイフルーツのデザートが少しずつ切り分けられる。高山植物も、ニッコウキスゲはないが、ワタスゲ少々、他にも小さくかわいい花がちらほらわれわれの目を楽しませてくれた。バスの出発時刻に遅れると大変なので、少し早めに帰路につく。



16:20 発のバスに乗車。桧枝岐村では、バスの運転手に宿泊予定の民宿を告げるとそこで停まってくれるそうだ。「駒口」(正確には「山人の宿 民宿駒口」と告げると、約 30 分で民宿前に到着。



ここで T 夫妻とも合流でき、夕食前に温泉に浸かるべく準備をするが、意見がいろいろ分かれてしまう。それは、温泉が、一つは宿から徒歩 5 分ほどで行ける「駒の湯」、もう一つは、徒歩で 15 分はかかる「燧の湯」と 2 か所あり、どちらに行くかで分かれたのだ。結局、個人の自由ということに。「駒の湯」では、村の歴史を訪ね歩くには近すぎるというので、「燧の湯」を選んだ者もいる。

歩き始めると、メインストリートのそこかしこにお墓があるのだが、ほとんどお墓の姓が「星」「橘」「平野」だ。しばらく行くと右手に「六地藏」の可愛い頭巾と前掛けをしている姿に出会える。この六地藏は、その脇にある「六地藏由来」によると、『此の地は昔から冷害になやまされ 特に凶作の年は餓死年と言い 多くの餓死者を出した。働ける者のみが生きるため「まびき」という悲惨な行為があったとか…

その霊を慰めるために建てられた六体の稚児像である。あはれさに 旅衣の袖も ぬれにけり 檜枝岐なる稚児の像見て ○○喜久子』だそうなのだ。



さらに進むと、虫歯様と言われる星家先祖の墓がある。さらに先に進んで右に曲がると、鎮守神への参道になっており、その中ほどに「橋場のばんば」と呼ばれる石仏にめぐり会える。この「橋場のばんば」は子供を水難から守ってくれる水神様なのだが、最近では縁結び・縁切りの神様として信仰され、悪縁を切り



たい時は新しい鋏を、良縁で切りたくない時は錆びて切れない鋏を供えるそう。人知れず恋に悩んだ若い男女がこっそりばんばに祈り幸せを得ているという。確かに、切れないように針金でグルグル巻きにしてある鋏も供えられている。また、ばんばの頭にお椀をかぶせるとどんな願いも叶えられるという。お椀の持ち合わせがなかったので、お賽銭をあげていろいろお願いをしたけどご利益があるかな。

そこからさらに参道を進むと、鎮守神の境内で歌舞伎の舞台がある建物とその観客席になる石垣に突き当たる。鬱蒼と茂る木立の中、境内の真ん中に立つとなにやらパワースポットの中のように感じられる。檜枝岐歌舞伎は江戸時代から始まった農村歌舞伎で、地域ぐるみで何世代も継承されているものだそう。平成 11 年 3 月に福島県の重要無形民俗文化財に指定され、毎年 5 月 12 日(愛宕神祭礼)、8 月 18 日(鎮守神祭礼)の例祭に奉納歌舞伎が、9 月第 1 土曜日には歌舞伎の夕べとして「千葉之家花駒座」の皆さんにより演じられている。また、歌舞伎の舞台は、この地域独特の「兜造り」で建設されたもので、昭和 51 年 8 月国の重要有形民俗文化財に指定されたそう。観客席になる石段に登り、舞台を見下ろすと実際歌舞伎が演じられている様が何と



なく想像できるほど素晴らしい。この石段の観客席の収容人数は約 1,000 人ということだ。5 月と 8 月の例祭は無料、9 月は村中宿泊客は無料、それ以外は有料(1,000 円)とのこと。

時間がないので、後ろ髪を引かれる思いでそこを後にし、いよいよ目的地である「燧の湯」に向かうが民宿で借りた木のサンダルは歩きづらいな。民宿でもらった優待券を渡し入場、山人(やもうど)の湯・燧の湯と書いてある暖簾を押しの中に入り汗を流して露天風呂へ。アブが飛んでいて怖かったが、お湯



の温度も外の中土合公園の景色も良く「超気持ちイー」。この温泉は、効能表によると、泉質は硫黄温泉で源泉掛け流し(58.5℃)だそうだ。(もう一つの「駒の湯」は泉質がアルカリ性単純泉ですべすべのお湯だそうだ。)とにかく時間が押しているので、鳥の行水で宿に戻ることにする。でも、その帰り道、ぶらぶら歩いていると、枯れた植物(稲わらより背が高い)が家の横に束ねてある。

何に使うのか、聞いてみよう。(注1)それと道のあちこちに消火栓があるのだが、それが 1m以上ある。これも聞いてみよう。(注2)

(注1) 植物は萱で、これから大根の種を蒔いた上にこれを敷くとのこと。

(注2) この地域は、雪が 1m以上積もるのでそのためだそうだ。

温泉効能表

正しい温泉の利用法

温泉名：温泉増殖促進法 (2) 自然温泉
 種別：純天然温泉 硫黄温泉
 湯：熱・ちび・ちび(源泉)

(浴用湯と温泉事項)

温泉成分	成分の含有率	成分の含有率	成分の含有率
Na ⁺	10.0	Ca ²⁺	10.0
Mg ²⁺	10.0	Cl ⁻	10.0
SO ₄ ²⁻	10.0	CO ₃ ²⁻	10.0
HCO ₃ ⁻	10.0	NO ₃ ⁻	10.0
Fe ²⁺	10.0	Fe ³⁺	10.0
SiO ₂	10.0	SiO ₂	10.0
その他	10.0	その他	10.0

温泉効能表 (注1) 温泉の効能表は、温泉の成分により異なります。温泉の成分により、温泉の効能は異なります。温泉の成分により、温泉の効能は異なります。

(注2) 温泉の効能表は、温泉の成分により異なります。温泉の成分により、温泉の効能は異なります。温泉の成分により、温泉の効能は異なります。



19時から夕食兼宴会だ。みんな、のどもカラカラ、お腹もペコペコ。どんな料理か待ち遠しい。食堂に全員集合。今回の旅の成功とみんなの健康を祈念して乾杯。いよいよ食事開始だ。並べられた料理を見ると、やはり地元の食材が中心の「山人(ヤモード)料理」で、岩魚のお刺身、天ぷら(山椒魚、南瓜ほか)、南郷トマト(桃太郎)と玉ネギ・ピーマンみじん切りの酢の物、コゴミの胡麻和え、ウドの三杯酢、胡瓜の漬物、蒟とイカの煮物、はっとう(語源は「ご法度」、そば粉ともち米の粉を混ぜ、捏ねて菱形に切り、エゴマをまぶしたもので、甘みがありモチモチした口触り)、すいとん(こちらでは、「つめっこ」と言うのだそうだ。牛蒡・人参・ジャガイモ・水菜を舞茸の出汁で煮込んだもの。)

これを肴に、会話もお酒も弾む。お酒は、好みに応じて、ビール・熱燗・冷酒(吟醸と辛口)を楽しんでいるようだ。締めは、ウドの味付けごはんと檜枝岐独特の製法で作った裁ちそばだ。結構お腹に来ていたが、両方共に美味しく、ご飯をお代わりしている豪傑もいた。

みんな満足して、部屋に戻るが、寝る時間には早いので、日本酒の冷酒2本(1本は濁り酒)と乾き物のつまみで飲み直し。本当にみんな酒豪だなあ。お酒が飲めるのは、元気な証拠であり、飲めない者にとっては、ちょっと羨ましい気がする。翌朝が早い(朝食が6時からOK)ので、23時前にお開きにし、就寝。(オヤスミナサーイ)

2 日目の朝、気持ちよく(?)目覚め、6 時からの朝食に向かう。朝食のメニューは、レタス入りスクランブルエッグ、岩魚の甘露煮、しし唐の大葉巻(超辛いのにあたたった人もいたようだ)、茄子とピーマンの油炒め、ワラビと人参と生姜の薄醤油和え、胡瓜の漬物、納豆、梅干、それにご飯と水菜の味噌汁だ。これもみんなきれいに平らげ、お弁当と水のペットボトルを受け取り、出発の準備に



掛かる。一泊 2 食(7,500 円)とお弁当(700 円)と温泉入場料(500 円)プラス飲み代、締めて一人当たり約 9,200 円と格安。



いよいよ出発だ。民宿の前で、記念撮影。ここで立って待っていれば、バスはもちろん止まってくれる。8 時過ぎにバスが到着し、人数を確認の上(これが重要なのですよ)、全員乗り込む。ここから、昨日行った尾瀬御池経由沼山峠まで直行なのだ。峠に向かう途中、眺望が開けた所でバスが停車、何かと思ったら、ブナの原生林が一望できる。運転手が、「ブロッコリーの森みた

いでしょ」とコメントしてくれたが、正にその通りだ。

約 1 時間で、沼山峠に到着。トイレを済ませ、準備運動をして、いよいよ出発。最初は木道の登りが始まるが昨日少し足慣らしをしているので、みんな元気だ。天気も良く、気持ち良い登りが続く。しばらく進むと、沼山峠展望台に到着し、しばしドリンクタイム。ここがこのコースの最高点で、ここからは、少し見え始めている尾瀬沼に向か



って下りのコースとなる。そして、しばらく下ると広い草原(大江湿原)に出るが、ここまで来ると、広々とした解放感と心地よい風も当たり、今までのちょっとした疲れも吹っ飛ばす。高山植物も目的のニッコウキスゲはなかなか現れないが、アザミ、ワタスゲ、コオニユリ、ツリガネダイコン等いろいろな色の花が目を楽しませてくれる。遠くに黄色の花の群落が見えるので、あれがニッコウキスゲかと期待をしながら進むと、残念ながら期待外れで、マルバダケブキの黄色い花であった。



雄大な燧ヶ岳と湿原の花々を眺めながら、尾瀬沼の小屋(長蔵小屋、尾瀬沼ヒュッテ)に 10:30 到着。予定時間より若干遅れ気味だったが、逆さ燧のビュースポットの三平峠下まで行ってみようということで背の高い百合の花を見ながら先に進む。でも、帰路の時間を考えると厳しいとの判断で、引き返し、ベンチが置いてあるやはり燧ヶ岳のビュースポットにてランチタイム。



民宿で作ってくれたお弁当を開けると、海苔巻のおにぎりが2個、胡瓜の漬物が1本、それに鳥の燻製とカマンベールチーズが出てくる。それぞれ燧ヶ岳の景色を堪能しながら、おいしくいただく。



くが、帰りの時間も気になりはじめ、12 時には出発しようとのことでいそいで片づける。

予定通り、12 時に来た時の道を反対に沼山峠バス停に向かって出発。帰りの道は、迷うような箇所もないので、グループ毎にそれぞれマイペースで進む。バスの出発が 14:10 なので、十分間に合いそうだ。最終組が、コースタイムの 1 時間 20 分を少し超える時間で到着すると、先着

隊はすでにビールを飲んだり、アイスクリームを食べたりしているのではないかと。荷物を下し、翌日からの筋肉痛の緩和のため、全員でクーリングダウンの体操を行い、体をリラックスさせながらバスの出発を待つ。

定刻の 14:10 にバスが出発。ここから駅まで約 2 時間なのだが、それぞれ景色を眺めながら会話を楽しみ、居眠りをしながら会津高原尾瀬口駅に到着。5 分早く到着したので、少し余裕を持って駅のホームへ。ここでも往きのことがあるので、人数確認は怠れない。全員電車に乗り込むが、鬼怒川温泉駅で再度乗り換えがあるので注意が必要なのだ。50 分後に最後の乗り換えも無事に済み、あとは約 2 時間終点の浅草へ向かうのみ。特急電車



車の座席を向かい合いにし、また一部のグループでは、酒盛りが始まる。本当に元気だなあ。結局、会話が弾んでいるうち、あっという間に到着だ。一部は、北千住で降車し、残りは浅草で降車。

事故もなく、全員無事に帰還できた。万歳！

今回、当初の気象予報では、25 日の月曜日が雨の予報だったが、全員の心掛けが良かったお蔭で両日とも好天に恵まれ、また乗り物に乗っている時間が長いことが心配だったが、逆に会話する時間が稼げたこともあり、それにヘルシーで美味しい料理が食べられたし、上手くいったのかなと感じていますがいかがだったかな。



(了)